

E-5 山形県尾花沢市^{おほろげ}臈気の通り庭式民家の変化について

山形大教育 金子 幸子

1. 本県内における古民家は近年新改築などにより変貌がはげしいので、その変化過程を検討するため、さきに調査を行なった民家について再度実地踏査を行っており、東田川郡朝日村田麦俣の多層民家や山形市本沢地区の土間生活住居についてはすでに報告したが、今回は尾花沢市臈気の通り庭式民家について1962～1968年の変化状態を報告する。

2. 前述の兩年とも、夏季と冬季に同一対象民家30戸について実地踏査および面接法により調査を行なった。

3. 尾花沢市は本県の北東にあり県下有数の深雪地帯であるが、臈気の民家の敷地は道路に面する間口が狭く奥行きが長いので、表通りに面して母家、その背後に小屋、倉などが接続して一列に並び、裏に畑がある。母屋の平面構成は片側に道路から裏に通ずる巾1m程度の通り庭があり、各室はこれに沿ってほぼ1列の配列をなし、2階建が多い。母家への出入は夏季は平入りであるが冬季は妻入りとなり、積雪のため母家内の通り庭は通路として重要な役割りを果している。部分的改造の場合は、浴室や便所の改造および勉強室の設置などが多く通り庭空間の改造は見られないが、新築の場合は、通り庭は皆無で母屋への出入は大部分が平入である。旧居に比して個室の確保や機能性は向上しているが、平面構成は敷地条件の制約を受けて飛躍的な変化は見られず、また母家よりも、階上に居室を設けた小屋の新築が多いこと